

もんじょかん  
文書館だより

第7号

発行者 〒438-0292 磐田市岡 729-1 竜洋支所内  
 磐田市歴史文書館(磐田市教育委員会教育部文化財課)  
 電話:0538(66)9112 F A X:0538(66)9722  
 Mail :[chiikishi@city.iwata.lg.jp](mailto:chiikishi@city.iwata.lg.jp)  
 開館は市役所開庁日 9:00~17:00



## 合併10周年、公文書の散逸・廃棄を防いだ磐田市

平成27年4月1日で磐田市が合併10周年を迎えます。平成17年の合併の際には、各市町村の保存期限満了(規定で満了後は廃棄することになっている)の文書や旧市町村史編さんで収集した公文書類は廃棄されるおそれがありました。磐田市では合併時に文書館の設置を予定し、その3年後には県内初の条例に基づく文書館を設置し、見事にこの問題をクリアしました。

現在「公文書管理法」に基づき、地方自治体にも国の機関と同様の公文書管理が求められ、文書館の役割も大きくなっています。



磐田市歴史文書館では、未来の磐田市民のために歴史的公文書が残されるよう努力していきます。

## 磐田の歴史が面白い! 是非一度お越しください

当館では次の3つを目標に掲げ、多くの市民の皆様にご利用していただけるよう願っています。

- |                 |                              |
|-----------------|------------------------------|
| 1 歴史・文化の継承      | 地域の歴史的価値ある記録を保存し、未来に伝えます     |
| 2 地域づくりのための情報発信 | まちづくりや豊かな文化創造に役立つ文書や資料を公開します |
| 3 歴史的公文書の保存と活用  | 過去の公文書を保存し、未来の行政に活かします       |

古文書、保存期間満了後30年を経過した公文書、行政資料などの閲覧が可能です(ただし、個人情報などが記されているものなど、非公開のものもありますのでご了承ください)。

所蔵資料は約19万5千件(平成27年1月末現在、以下「1月末現在」と表示します。)市町村史の調査で収集した資料や行政機関から移管された公文書、個人のお宅から寄贈された歴史資料などから構成されています。今後、自宅や自治会・会社などに、保存が難しくなった地域の資料があったら、処分する前に是非ご相談ください。

地域史、自分史、家系図づくりに活用してください

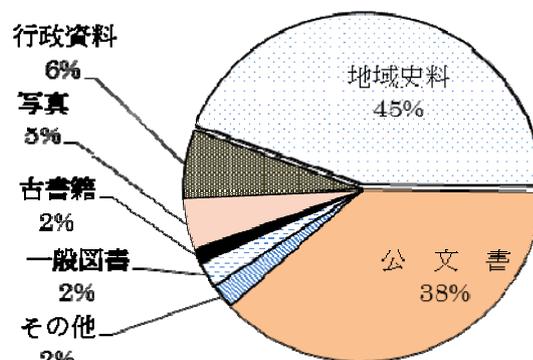
# 平成 26 年度の文書館事業

## 資料保存

歴史的価値のある公文書・地域資料は受け入れ後に目録を作成し、整理が済んだものから、目録順に中性紙の封筒・箱に入れ、収蔵庫に収めます。

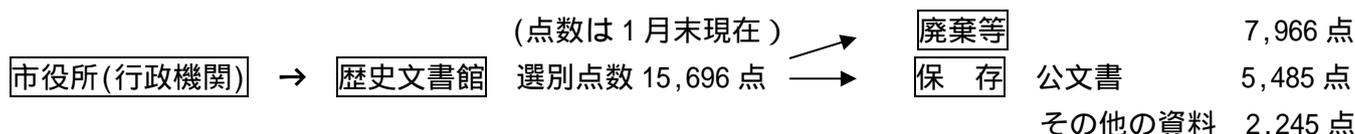
### 平成 27 年 1 月 31 日現在収蔵資料点数 (十の位を四捨五入)

- ・地域資料(古文書、複写物等) 87,000 点
- ・公文書(行政機関の資料) 74,000 点
- ・行政資料(行政機関が発行した資料) 約 12,500 点
- ・写真 9,300 点 ・古書籍 2,800 点 ・一般図書 4,700 点
- ・その他 ・地図/絵図 1,600 点 ・統計資料 1,600 点  
CD・DVD 1,300 点 ・土質標本など 200 点



## 公文書の移管・選別

公文書は、行政機関(市役所、各委員会・消防署など)において、処務規定で決められている保存年数保管され、文書館に移管されます。文書館では歴史的価値があるものを選別し、永久保存します。



## 収集・調査

寄贈いただいた資料やお借りした資料は、写真撮影や複写を行い、目録を作成しています。特に重要と思われるものは解説も行います。

- ・寄贈件数 7 件 点数 632 点 (1 月末現在)

地域資料は個人・自治会などからの寄贈によるものです。主なものでは、豊岡地区平松の個人宅から 532 点(近世の庄屋の文書・近代の村政/天竜川増水による被害陳情/水防用具の備蓄関係資料など)、福田地区塩新田の個人宅から 51 点(軍隊・漁業関係の近現代文書など)があります。

## レファレンス

卒論や先祖調べのための資料作成や、古文書の読みや意味を知りたいなど、個人・法人の様々な調査・研究などのお手伝いをしました。

- ・レファレンス利用者 98 名 (1 月末現在)

## 企画展

夏季と冬季の年 2 回「企画展」を開催しました。どちらも歴史文書館で展示後、場所を中央図書館に移して開催しました(第 14 回図書館開催は平成 27 年 4 月です)。

< 入場者数等 >

- ・第 1 2 回企画展 5 月 191 人 於 中央図書館
- ・第 1 3 回企画展 7~8 月 293 人 於 歴史文書館
- ・第 1 3 回企画展 9 月 304 人 於 中央図書館
- ・第 1 4 回企画展 1~2 月 (1 月末現在) 133 人 於 歴史文書館
- ・関連イベント 講演会 2 回(歴史学習会、町並みトーク) 町並ウォーク 1 回
- ・平常展 江戸~明治時代までの漢籍・技術書・教科書・俳句集などの和書を展示など
- ・その他 竜洋地区文化祭、静岡産業大学の大学祭「蒼樹祭」で『二条亭行幸図』複写物を展示



### 第13回 「松岡霊社旧蔵「二条亭行幸図」と「拾遺手鑑」

松岡霊社とその宝物については以前の企画展でも公開していますが、13回企画展では、2点の資料を初めて展示しました。1点は**絵巻物**、江戸時代の初めに天皇家に嫁いだ将軍秀忠の娘和子が、天皇家族と共に二条城を訪れた時の行列が描かれたものです。もう1点は**手鑑**、高名な人の筆の跡がある断簡や色紙のコレクション、この中には国宝の「手鑑」に収められている断簡と元は1枚であったことが推測される簡も収められています。いずれも長く松岡霊社の宝物として保管されて、現在は歴史文書館で所蔵しています。博物館でも見られるとは限らないもので、“こんなきれいで貴重なものが磐田市にあったとは！”と、来館されたみなさんも驚かれていました。8月5日には、熱海市のMOA美術館を経て現在修善寺郷土資料館館長の、田中之博氏を竜洋支所にお迎えし、貴重な2点の資料について、特に先生のご専門である手鑑を中心にお話しいただきました(受講者 51名)。和歌や書など優雅な公家文化を垣間見ることができました。

### 第14回 「よみがえる“遠州の小江戸”～掛塚湊繁栄の軌跡」



江戸期から明治期にかけて、木材の回漕などで栄えた掛塚湊について、その繁栄ぶりを木材の「送り状」、「浦証文」ほか文書や港湾絵図、町並のジオラマなどを通して紹介しました。

1月10日には、講師に元竜洋町史編さん委員長であり、合併前の竜洋町長でもあった池田藤平氏をお迎えし、“湊町掛塚の魅力”と題して掛塚の繁栄の歴史についてお話しをいただきました。参加者は68名、氏が伝え聞いたことや資料に基づいた、実際に住まわれていた方ならではのお話でした。



また、同月17日には「町並ウォーク」を開催しました。登録有形文化財の建物・廻船問屋など、繁栄の跡が今に残る掛塚の町を応募いただいた32名の方が2時間かけて廻りました。風が強くとっても寒い日でしたが、みなさん熱心に説明に耳を傾けていました。

#### ◆◇次年度企画展の予定◆◇

第15回は、磐田市合併10周年にあたり「日本の近代を開いた人々(近代史に見られる磐田人を紹介)を夏に、第16回は、「家康と磐田」(家康文書、伝説などを紹介)を冬に計画しています。ともに仮題



### 古文書講座

初級者・中級者を対象とする講座を開設しました。また、初級受講者の中で希望する方を対象に、中級講座を開設しました。

#### 古文書解読初級講座

＜磐田地域の史料をテキストに用いました。＞

開催期間：前期(6月)3回56人、後期(7月)3回47人 於 ワークピア

テーマ：第1回「さまざまな奉公人」 第2回「武家と庶民」 第3回「男女と親子」

#### 古文書専修(中級)講座

＜見付宿の成立や由緒に関するもの他、地域の代表的な文書を用いました。＞

開催期間：10月～3月毎月1回(第3金曜日) 全6回40人 於 歴史文書館

内容：13グループに分かれ、講師のアドバイスを得ながら、グループ内で自主的に解読・筆耕



しました(第1回～第5回)。第5回には、史料データの作成、第6回は、古文書の補修(裏打ち)の実習や古文書の保存方法を学びました。

さらに来年度は、中級講座の受講者の中から、希望する方を対象に「古文書実践(上級)講座」を平成27年4月から平成28年3月までの毎月1回、実践的・専門的な講座を開設する予定です。

## 福田町史編さん事業

平成27年度はいよいよ事業完結の年、  
『福田町史通史編』を刊行します。



福田のシンボル・ハマボウ

福田町史展『福田に生きる花・鳥・魚・虫たち』

写真資料を中心にコーナーを設け、福田の自然を感じていただく展示会になりました。 8月9日～31日 / 福田公民館 507人

同展の調査報告会 8月9日 / 福田公民館 54人

ふるさと福田歴史講座 新たに発見された資料を映像による講座と現地探訪を通じて、福田がたどった歴史を身近に感じていただきました。

第1回「弥生時代から中世・元島遺跡の大発見」「唐人船満勝号と豊浜の人々」

「伊奈忠次の太田川大改修」など / 10月25日 42人

第2回「明治維新と徳川藩士の塩田開発・大プロジェクト」「福田の花、ハマボウの不思議」「海運の環洋社」など / 11月1日 42人

第3回 現地探訪 歴史講座で学んだ、塩田跡・横須賀城跡・掛川市原谷旧寺田村を市バス「しっぺい号」でめぐり、ふるさと福田の歴史を実感していただきました。11月8日 30人



## 史料紹介 「御厨村時代の公文書」

「**廃物**」 このほど整理した歴史文書館の資料の中に表紙に「廃物」と書かれた綴がありました。中身は、昭和25年から31年までの御厨村役場の公文書や、挨拶の草稿、新聞の切り抜き、書簡（金原明善書簡も1通あり）などです。文書の宛名などから、旧御厨村の村長江塚勝馬氏の村長在任中のものであることが分ります。



旧御厨村は昭和30年に他の村とともに旧磐田市に合併していますが、この綴の中の「村の合併についての私見」・「庁内回章、村の合併問題について」の2点の資料は、村の指導者が合併をどのように考え、選択していったかが窺える資料です。現在の市役所の決裁文書や回覧文書に当るもので、文書には他の吏員（職員）の印も押印されていて大変貴重なものです。

「村の合併についての私見」下記のような項目が立てられています。

行政事務再配分と町村合併

さて御厨村はどうするか

三途中いづれを選んで進むがよいか

合併の準備調査やその他の手続き

三村合併による新村の姿

右に一部を抜粋しました。 →



三途中何れを選んで進むがよいか  
現状維持の途はお互いがバスに乗り遅れたときに悲哀を知る限り決して固執すべきではない：  
磐田市の合併は利得の面よりは寧ろ損得の方が  
多いように思われるばかりではなく、事実上磐田  
市へ併呑される結果となるため、利点は殆ど現在  
の市側に吸収せられ、失点は反対に現在の村側に  
負担される惧れが濃厚で・・・  
田原・南御厨両村との三村合併 利得も格段に  
多いとは云へまいが、その代わりに損得は利得の  
程よりずっと少なくて済むという利点がある：  
：

### 旧町村の公文書

昭和30年以前の公文書は、当時保存期間や廃棄の是非などが明確にされておらず、吏員の判断によっていました。そのため合併の度に多くが廃棄され、現在残されているのは、保管場所があってそのまま残っていたもの、または吏員・郷土史家など個人が引き取るなどしたもののみです。江塚村長の「廃物」も村長が廃物として持ち帰り、それを郷土史発掘に尽力された「磐南タイムス社（＝遠州文化センター）」高橋福雄氏が元村長から譲り受けたものかと思われます。